

鹿島市総合教育戦略会議（第29回） 議事録（概要版）

開催日時 令和7年10月28日（火）15時00分から15時30分まで

開催場所 鹿島市役所 3階 庁議室

出席者等

- ・法定構成員 松尾市長、吉牟田教育長、
池田教育委員、吉田教育委員、山口教育委員、境教育委員
- ・市長部局 烏飼副市長、川原政策総務部長、嶋江総務課長、中村政策調整課長、
事務局（総務課：伊東課長補佐、松本主査、森元）
- ・教育委員会部局 江頭教育次長兼教育総務課長、山口生涯学習課長
(教育総務課：加藤教育指導主事、三原課長補佐、岩屋係長)
- ・傍聴者 なし

協議事項

第3期鹿島市教育大綱（R8～R12）の修正案について

（事務局説明）

○第28回会議（R7.9.2）の振り返り

『大綱の全体的な方向性』

- ・1期2期の大綱では子どもの教育に焦点を絞った大綱だったが、第3期大綱では社会教育、文化、スポーツの振興を加え、名称も『鹿島市子ども教育大綱』から『鹿島市教育大綱』と変更する。
- ・第3期大綱は、『第八次鹿島市総合計画』と『鹿島市の教育』との整合性をとりながら、個々の施策を実施していく。

『素案に対する意見（抜粋）』

- ・大人も子どもも鹿島の自然や伝承芸能などの良さを知り、ふるさと鹿島に誇りを持ってほしい
- ・個性や多様性を大事にしながら、子どもたちが主体性を持って行動・挑戦していってほしい
- ・人づくり、繋がりづくり、地域づくりが大事で、地域全体で子どもたちを育てるという意識を持つ
- ・そういう市民像・子ども像というのを掲げたい

○前回会議の意見等を踏まえた修正案（変更点）の説明

『追加事項』

- ・教育大綱に対する市長の想い、ことばを追加

『基本方針』

「ふるさと鹿島」を愛し、自然と文化に誇りを持ち、自ら考え、未来を切り拓く子どもを、その幸せを第一に、地域の力で育てます。

『重点的な目標』

「鹿島の誇りとアイデンティティを育てる教育」

地域の歴史、文化、自然を活用した教育を開発し、「ふるさと鹿島」に誇りを持つ子どもたちの育成を目指します

「主体性を持ち挑戦する力を育む教育の推進」

子どもたちの個性・能力・多様な価値観を尊重すると共に、自ら考え、主体性を持って行動・挑戦できる子どもたちを育成します

「地域全体で子どもを育てる仕組みづくり」

学校と地域社会が連携し、地域行事や伝承芸能、スポーツを通じ、人々が繋がりを実感できる取り組みを推進します

(意見等)

- 大綱の基本方針の文面の中で、あえて「子どもの、その幸せを第一に」とされているのは、強いメッセージとして意識しているのかなと感じた。
- 想いとしては、子どもの幸せな姿というのを大事に考えて、地域・大人たちが育てていこうというところを表現したかった。
- 誰一人取り残さないという意味合いもそこに入るのかと。鹿島の強い決意を感じた。
- 「子どもの幸せを第一に」というフレーズは大事にしたいと思った。
- 「子どもたちの個性・能力・多様な価値観を尊重すると共に、自ら考え、主体性を持って行動・挑戦できる子どもたちを育成します」というところで、前半は、大人が子どもたちの個性・能力等を尊重する。後半は、子どもたちが自ら行動できるようになるということで良いか。
- 子どもたちもお互いに相手の個性・能力・多様な価値観を大事にしないと、自分を表出できないというところがある。その辺りを大事にしながら、そういうメッセージも届けていきたい。
- 子どもたちもお互い多様性を尊重するというところも入っているのだろうが、この文章だけで言うと、確かに大人の方が子どもたちを尊重するとなっている。
- 子どもがそうなるためには、まず大人が先にという気もする。それならば、“尊重すると共に”ではなく“尊重し、”がいいのでは。
- 出だしのところも、“子どもたちの“ではなく、大人も子どもも含めて”お互いに“としていいのでは。

『子どもたちの個性・能力・多様な価値観を尊重すると共に、自ら考え、主体性を持って行動・挑戦できる子どもたちを育成します』 を下記に変更する

↓

『お互いに個性・能力・多様な価値観を尊重し、自ら考え、主体性を持って行動・挑戦できる子どもたちを育成します』